

ヒアリング古典 百人一首 百人一首⑧

名前

「

」

夕ゆうされば門田かどたの稲葉いなばおとづれて

蘆あしのまろやに秋風あきかぜぞ吹ふく

大納言だいなごんつねのぶ経信

音おとに聞きくたかしの浜はまのあだ波なみは

かけじや袖そでの濡ぬれもこそすれ

祐子ゆうし内親王家ないしんのう紀伊きの

高砂たかさごの尾上おのえの桜さくら咲さきにけり

外山とやまの霞かすみ立たずもあらなむん

権中納言ごんちゅうなごんまさふさ匡房

憂うかりける人ひとを初瀬はつせの山やまおろしよ

はげしかれとは祈いのらぬものを

源俊頼朝臣みなもとのとしよりあそん

契ちぎりおきしさせもが露つゆを命いのちにて

あはれ今年ことしの秋あきもいぬめり

藤原基俊ふじわらのもととし

ヒアリング古典 百人一首 百人一首⑧

名前 へ

く

わたの原はらこ漕いぎ出いでてみればひさかたの

雲居くもいにまがふ沖ゴウつ白浪おき しらなみ

ほつしょうじにゆうどうさきのかんはくだいじようだいじん
法性寺入道前関白太政大臣

瀬せをはやみ岩いわにせかるる滝川たきがわの

われても末すえにあはむとぞ思おもふ

すとくいん
崇徳院

淡路島あわじしまかよふ千鳥うちどりの鳴なく声こえに

幾夜いくよねざめぬ須磨すまの関守せきもり

みなもとのかねまさ
源 兼昌

秋風あきかぜにたなびく雲くもの絶たえ間まより

もれ出いづる月つきの影かげのさやけさ

さきようのだいぶあきすけ
左京大夫顕輔

長ながからむ心んこころも知しらず黒髪くろかみの

乱みだれて今朝けさは物ものをこそ思おもへ

たいけんもんいんのほりかわ
待賢門院堀川